



修学旅行に行ってきました！！

7/4(金)～7/6(日)の2泊3日で修学旅行に行ってきました。気温は東京と左程変わりありませんでしたが、幸いなことに3日間とも東京より湿度が低く、体調不良となり就学旅行の途中でリタイアする生徒もなく、全員元気に帰ってきました。

また、世間を騒がせた「2025年7月5日」予言の影響か、外国人観光客も少なく、そのおかげで「清水寺」に向かう坂道の渋滞、公道の渋滞もなく、路線バスも時間通りに到着するなど、当初心配されていたインバウンドによる心配から回避された修学旅行となりました。といっても、すれ違う観光客はほぼ外国の方々ばかりで、京都駅に行ってやっと日本人に会えるといった状況でした。

以下に、3日間の様子をお伝えします。

7/4 (金) 1日目

予定通り京都駅到着。バスに移動し、はじめに「平等院鳳凰堂」の見学。鳳凰堂が池に浮かぶ姿が特徴的で、生徒達もその美しさに言葉を失っていました。

その後は「奈良公園」へ移動。奈良公園に生息する「鹿」のお出向かいに歓喜(悲鳴?)の声が上がりました。そして、東大寺の前で集合写真。大仏殿に入り「大仏」様とご対面。高さ15メートル、顔の幅3.2メートル、手の大きさ2.5メートルもある大仏を見上げる生徒達の口は開いたままでした。

その後、宿泊先「金波楼」へと移動。金波楼は京都の中心に位置し「錦市場」が目の前の情緒あふれる宿です。食事各部屋に準備され、生徒たちは宿での生活を満喫していました。

夜の生徒企画によるレクリエーション大会では、先生方も参加し非常に盛り上がっていました。



7/5 (土) 2日目 【班別行動】

2日目は、班別行動です。各班で計画した行動計画表に沿って、バス、電車を使い、京都市内の名所、史跡を散策しました。

この日の各班の見学地は、主に「清水寺」「銀閣寺」「三十三間堂」「伏見稲荷大社」「祇園」「錦市場」でした。昼食場所も事前にリサーチし、それぞれの班が思い通りの飲食店で、京都ならではの味を楽しみました。(ファーストフードは原則禁止)

この日も熱中症が心配でしたが、全ての班が約7時間にわたる行程をクリアし、元気に宿まで帰ってきました。宿の方々も元気に戻ってくる生徒達の姿に感心していました。



宿での夜の体験は「舞妓鑑賞」でした。普段はなかなか会うことのできない、本物の舞妓さんの踊りを鑑賞し、鑑賞後は舞妓さんへの質問タイム。舞妓さんの年齢が18歳であることを知った生徒たちからは驚きと感嘆の声が上がりました。

また、京都出身の舞妓さんは意外と少なく、中学あるいは高校を卒業後、地方から親元を離れ、舞妓になるために京都の置屋へ住み込み、厳しい修行のもと、舞妓さんになれることを知った生徒たちは、尊敬のまなざしと共に舞妓さんを見つめていました。舞妓さんに何が一番大変ですかと生徒が質問すると、「京都弁を覚えることです。」と言っていました。





「清水寺」



「伏見稲荷」



「三十三間堂」



「錦市場」

7/6 (日) 最終日 【タクシー行動】

あっという間の3日間が過ぎ、お世話になった宿の方々にお礼を言って宿を後にしました。

宿を後にする生徒達からは「もう帰るの」、「帰りたくない」、「3日間早すぎ」といった声が聞こえました。

修学旅行最終日は「班別タクシー行動」。班ごとに考えた工程順にタクシーの運転手さんがガイドも含め京都市内を巡ってくれました。3日目の見学地は、主に「金閣寺」「北野天満宮」「天龍寺」「嵐山」「京都タワー」でした。

タクシーの運転手さん方はとてもやさしく、そして面白く、5時間ほどの市内巡りでしたが、京都駅でタクシー運転手さんと別れを惜しむ生徒たちの姿が印象的でした。

13:45 京都駅前で「解散式」が行われ、帰路につきました。(東京駅の粘りつくような湿度に げんなり…でも、生徒は元気)



「金閣寺」



「北野天満宮」



「天龍寺」



「銀閣寺」



嵐山「渡月橋」



「京都タワー」

終わりに

修学旅行の企画立案と3日間皆さんのサポートをしてくださった「近畿日本ツーリスト」のスタッフの方々、心温まるおもてなしをしてくださった宿舎「金波楼」の方々、皆さんの思いをかなえてくれたタクシー運転手の方々、暑い中、各チェックポイントで生徒を見守ってくれた先生方、そして修学旅行に送り出してくれた保護者の方々に感謝の気持ちを忘れず、修学旅行での経験を残りの学校生活に生かしてってください。

所 感

中学校で3年間一緒に学校生活を過ごす仲間たちですが、同じ場所で寝食を共にするといった経験は、現代においては意外と少ないのかもしれません。私が中学生の頃は、登山、キャンプ、臨海教室、スケート・スキー教室といった宿泊行事は当たり前に行われキャンプに関しては風呂なしの3泊4日でした。昔から「同じ釜の飯を食う」という言葉がありますが、その意味は、正に仲間と共に生活を送り、苦楽を共にした親しい間柄を意味し、同じ場所で寝食を共にすることで仲間との絆を深めたものでした。生徒の皆さんは今回の2泊3日の修学旅行を通じ、改めてそれぞれの仲間の個性を再認識することができたのではないのでしょうか。長い時間生活を共にしていくと、正直なところ「合う」「合わない」といった人間関係が生じると思います。ですが、中野第二中学校での仲間との出会いの始まりは「偶然」から始まり、今となっては「必然」へと変化しているものと考えます。人生においては何事も始まりは「偶然」ですが、しかし人生においては何事も「必然」だと思います。こういった人生を「運命」といいます。

「合わない」と思う仲間がいて当然ですが、そういったことはこれからの高校・大学生活、そして社会人として就職してからも続きます。これから進む場所で、自分と気の合う人だけの集団が自然に形成されることはないと思います。ですから、皆さんがこれから進む先で出会う仲間達は「運命」として出会う仲間達なのかもしれません。そこで出会った仲間一人一人とのコミュニケーションを深め、相手の個性を理解し、共に生活や仕事をしていく中で生まれる深い信頼関係と連帯感を培うことが重要です。その結果、「気の合う」あるいは「心を許せる」と思える集団へと変容していくのではないのでしょうか。そして、そこで得た仲間との関係性は、生涯の宝物になると思います。

3年生が夏休み後に登校する日数 128日

仲間達と一緒にいられる時間 学校での生活時間 1日8時間 × 128日 = 1,024時間